



## 研究テーマ

- 1 雑草の生態解明と有効な防除法の検討
- 2 作物の栽培管理技術に関する研究
- 3 植物の機能を利用した新たな雑草管理技術の開発

## 研究概要

九州県内あるいは宮崎県の作物生産の中で、多発生によって問題とされ始めた雑草を対象として、発生生態等を解明するとともに、その結果を基に除草剤の使用も含めた有効な防除技術について検討しています。また、新たな作物の栽培管理技術について研究しています。さらに、植物の機能を利用した環境に優しい雑草管理技術の開発をめざした研究にも取り組んでいます。

## 松尾 光弘

まつお みつひろ

農学部

附属フィールド科学教育  
研究センター

講師

## キーワード

雑草, 雑草防除, 雑草生態, 水田雑草, 畑雑草, 除草剤, 新作物, 栽培技術, 環境調和型農業, アレロパシー (他感作用)

特許情報・  
共同研究・  
応用分野など

雑草防除については、これまでに農薬メーカー数社との共同研究も実施しています。また、農水省関連研究機関とも連携できますので、情報交換・収集が早くできます。

新たな作物の栽培技術については、地域からの依頼により共同でこれまで研究を進めています。

新たな雑草管理技術の研究では、応用昆虫学研究分野との連携により、天敵を温存できる植物も含め、様々な植物に関する機能について雑草防除への利用のための研究に取り組んでいます。

## 1 雑草の生態解明と有効な防除法の検討

現在、日本の農業現場で多発生して問題となっている水田雑草および畑雑草について、その発生生態あるいは生育特性を解明するとともに、その結果を基にして除草剤の使用も含めた有効な防除法を検討しています。これまでに、九州の果樹園で多発生しているツユクサ科の雑草マルバツユクサと、北部九州の大豆圃場で問題となっているカロライナツユクサについて、その生態を解明するとともに、農薬メーカーと連携しながら除草剤の使用による防除法について研究を進め、防除技術を確立させました(図1参照)。



図1 マルバツユクサの防除に有効な除草剤の選抜試験

## 2 作物の栽培管理技術に関する研究

地域の環境に見合った作物の栽培方法について、遺伝資源を利用したり、実際の地域に出向いて圃場での試験を実施したりして、栽培に関する基礎的な研究を実施しています。これまでの研究では主に薬用植物を対象としており、多収となる栽培方法の確立を検討しています。

## 3 植物の機能を利用した新たな雑草管理技術の開発

植物が持つ機能(アレロパシー)を利用して、除草剤に依存しない雑草防除法の技術開発を行っています。これまでに、イネ、ソバ、マリーゴールドやハーブを利用した新たな雑草管理技術についての研究に取り組んでいます(図2参照)。



図2 雑草の発生が少ないハーブ類植物の選抜試験

## ホームページ

木花フィールド・フィールド科学研究室

[http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/mmatsuo/kibana\\_fsl\\_index.html](http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/mmatsuo/kibana_fsl_index.html)

## 技術相談に応じられる関連分野

- ・農業現場で問題となっている不明雑草の鑑定とその防除方法
- ・新たな作物についての栽培管理方法の技術指導
- ・雑草管理に有用な資材利用の検討

## メッセージ

九州の国立大学の中で唯一雑草に関する研究をしておりますので、雑草問題でお困りの場合は是非ご連絡下さい。また、薬用植物などの栽培を検討されている場合もお知らせ下さい。